

脱炭素を地域の発展につなげるーゼロカーボンシティ真庭市の取組ー

写真は岡山県真庭市 蒜山高原にある GREENable HIRUZEN
(隈研吾建築都市設計事務所のデザイン 愛称 風の葉)



真庭市キャラクター「まにぞう」

2024年9月1日(日)
大学等コアリション地域ゼロカーボンワーキンググループシンポジウム
(於：岡山大学)



 **約4.1万人**
(R6.8.1現在)
人口

 **約828km²**
(東京都23区の130%)
面積

 **約8割**
森林率

森林の約7割が
ヒノキ
(美作ヒノキ)

◆真庭市のプロフィール

- ・ 場所：岡山県の北部
(南北50km 東西30km)
- ・ 財政規模 (R6予算)
 - ：一般会計 346億円
 - ：特別会計 203億円 (公営企業含む)
- ・ **2005年9か町村合併により誕生**
- ・ **バイオマス産業都市指定** (2014年)
- ・ **SDGs未来都市指定** (2018年)
- ・ **脱炭素先行地域指定** (2022年)

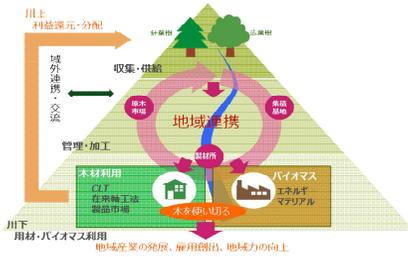


太田昇市長

◇真庭市の経営方針◇

- ・ **地域資源循環型の地域経営**
- ・ **林業、木材加工業活性化と再生可能エネルギー産業**
- ・ **環境型低コスト農業の推進**
- ・ **高齢化社会に対応する共生社会**

「バイオマス・SDGs・脱炭素」に係る真庭市の歩み



21世紀の真庭塾

地元の若手経営者等が集まり、地元地域の未来を考える組織を立ち上げ。1997年に、「2010年の真庭人の1日」を報告。豊かな森林資源を背景に、「木を使いきるまち」を目指すことなどが盛り込まれる。

1992年 2006年

バイオマスタウン 真庭構想

木質資源をエネルギー活用するための実証事業を開始

バイオマスツアー 開始



バイオマス 産業都市に選定

- ・真庭バイオマス発電事業
- ・木質バイオマスリファイナリー事業
- ・有機廃棄物資源化事業
- ・産業観光拡大事業

2014年



生ごみ資源化 事業開始

2015年

真庭バイオマス 発電所稼働

発電容量：10,000kW
地域の未利用資源（間伐材・製材端材等）を活用し、「木を使い切る」仕組みを構築



SDGsを推進し、その取組をホームページ上で発信しあう「真庭SDGsパートナー」は、5月19日現在389団体に⇒



地域循環共生圏 プラットフォーム選定

2018年 2019年

SDGs未来都市 に選定

地域エネルギー自給率100%/2050カーボンニュートラルの実現を目指すことを宣言。
→具体策：木質バイオマス発電所の増設に向けた検討 ほか



真庭市：第1回脱炭素先行地域に選定

真庭市：第1回脱炭素先行地域に選定

年度	2019	2020	2021	2022	2023
削減率	10%	15%	20%	25%	30%
削減率	10%	15%	20%	25%	30%
削減率	10%	15%	20%	25%	30%

第1回脱炭素先行 地域に選定

庁内組織「2050ゼロカーボンシティまにわ対策チーム」の設置・施策検討(R3.10~11)

ゼロカーボンシティを宣言

ゼロカーボンシティまにわ宣言

近年、地球温暖化が原因と見られる気候変動の影響により、日本各地で深刻な災害が発生しています。平成30年7月豪雨では、岡山県下でも、本市を含む多くの住民の生命・財産を脅かす甚大な被害が発生しました。気候変動は、本市にとって対岸の火事ではなく、当事者として対策を講じなければならない喫緊の課題となっています。

気候変動以外にも、海洋プラスチック問題など、ただただ行動を起こせば手遅れとなる重大な環境問題が噴出しています。化石燃料に依存し、環境を犠牲にした豊かさの追求は、もはや限界を迎えています。

まさに、環境・経済・社会の三側面の課題に統合的に取り組むSDGsの理想への転換が必要であり、この地域を安心・安全で持続可能なものにしていくために、今、脱炭素を前提とするまにわに向かって舵を切って舵を切らなければなりません。

SDGs未来都市・真庭市は、SDGs目標13「気候変動に具体的な対策を」の達成に向けて、豊富な森林や岡山三大河川旭川水糸の豊かな水など、地球資源を活用した自然再生エネルギーによる地域エネルギー自給率100%を目指し、エコで災害にも強いまちづくりに取り組みしていきます。

また、焼ごみの削減を図る資源循環システムづくり、エコカー・自転車を活用したエコで健康な交通網づくり、市民・事業者と協働したカーボン・オフセットによる森づくり、「100% CHOICE(賢い選択)」の推進によるエコガバナンス行動ができるまちづくりなど、ソフト・ハード両面で様々な脱炭素のまちづくりを進めています。

真庭市は、市民・事業者一体となり、これらの脱炭素のまちづくりを一層加速させ、2050年二酸化炭素排出実質ゼロ都市「ゼロカーボンシティまにわ」実現に向けた歩みを進めていくことをここに宣言します。

令和2年(2020年)3月17日



21世紀の真庭塾

21世紀の真庭塾とは

21世紀の真庭塾は、岡山県真庭南部地域(旧勝山町、落合町、久世町の広域3町)における次世代の企業家、各方面の若手リーダーを中心に、1993年4月に発足された地元の研究組織。

真庭地域の将来を自ら行動することを前提とした提言を目的とし、これまで自主研究会を通算160回(延べ600時間)開催している。

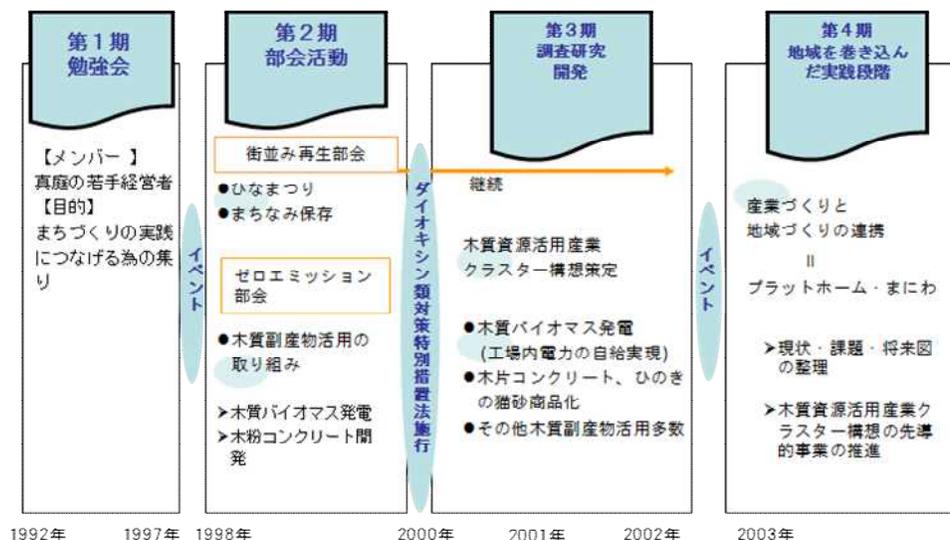
研究会には、当時の国土庁計画調整局長、法政大学教授をはじめ、日本政策投資銀行、三菱総合研究所、日本総合研究所等の研究者等を迎え、様々な議論を展開してきた。

1997年10月の「環境まちづくりシンポジウム」開催後、メンバー自らがバイオマス発電や木粉コンクリート製品製造などの産業、まちなみ保存やひなまつりなどの地域づくりを通じて行動する集団。

2002年11月、NPO法人格取得。



真庭塾の歴史

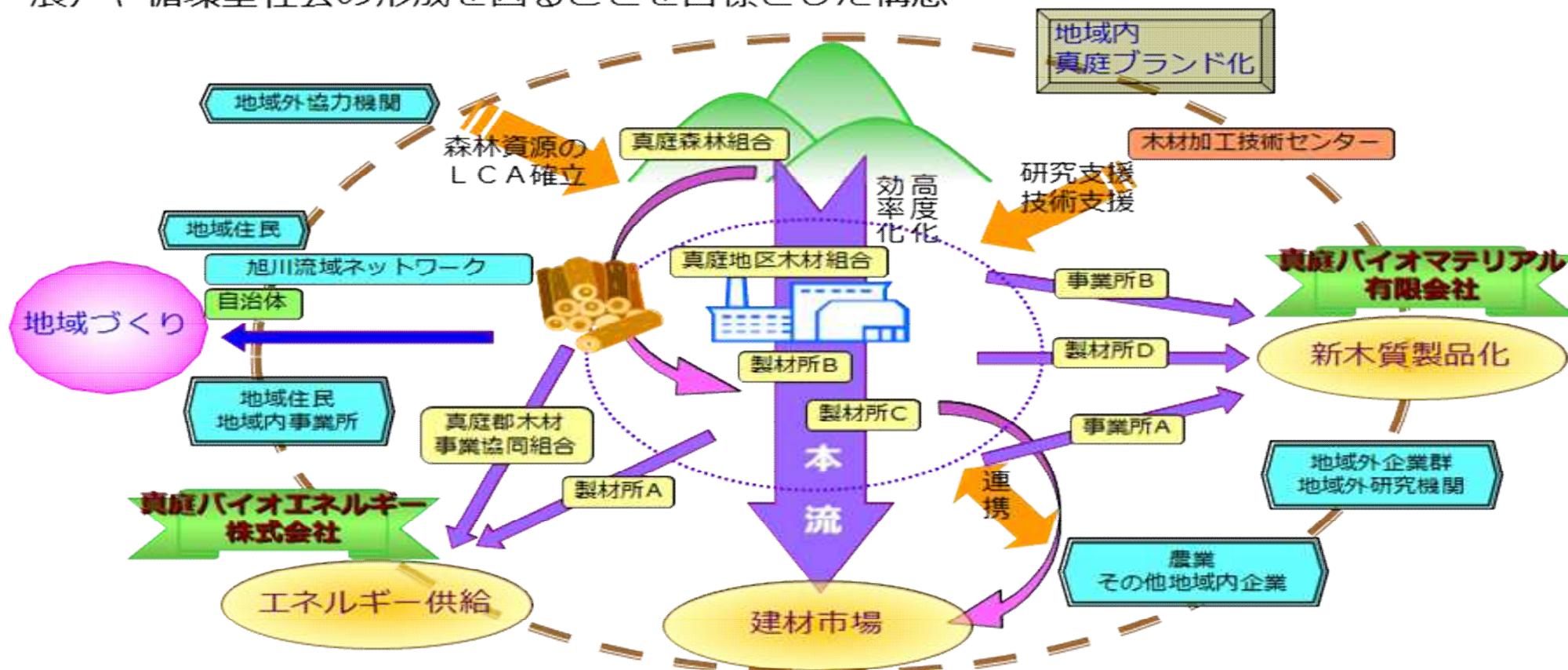


NPO法人 21世紀の真庭塾 発足(2002年度)
 <<事業推進の中心的な役割>>

21世紀の真庭塾

◆木質資源活用産業クラスター構想（平成13年度）

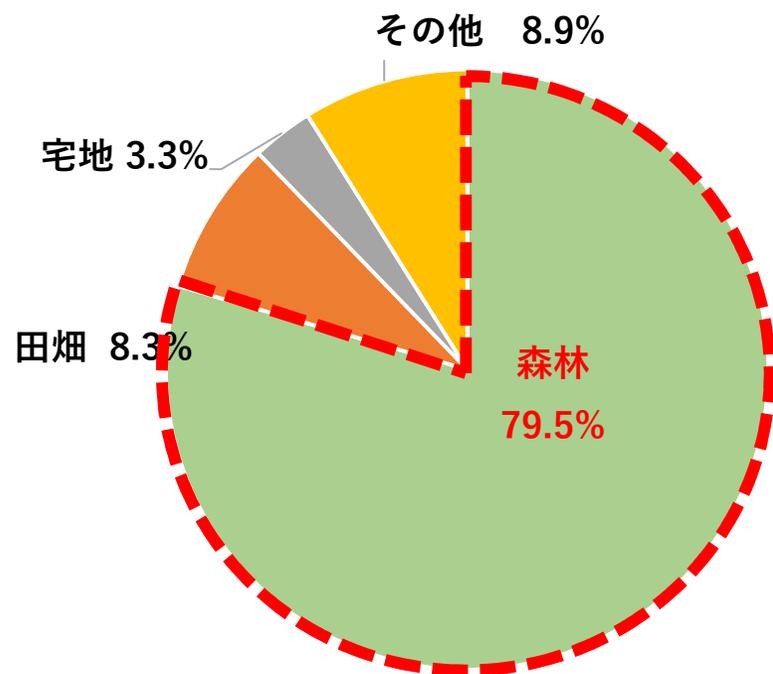
本流である林業・木材産業を基盤として、発生する副産物を多角的（エネルギー・マテリアル）に活用したり、異業種を含めた産業連携を築き、地域産業の活性化（持続的な発展）や循環型社会の形成を図ることを目標とした構想



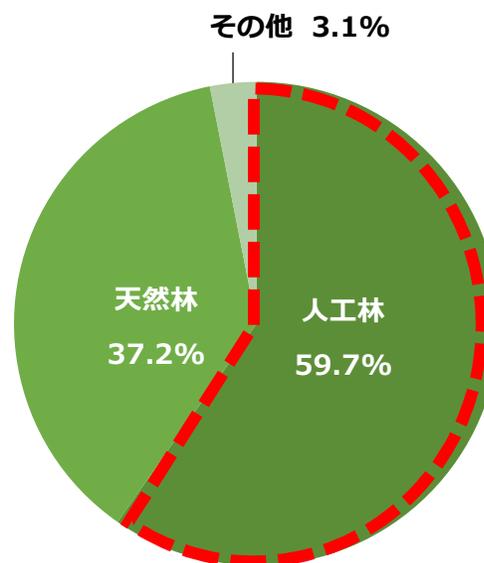
※このころから、木質系廃材や林地残材といった**森林資源を余すことなく活用していこう**という理念（思い）が地域関係者へ浸透。

真庭市の森林資源の状況

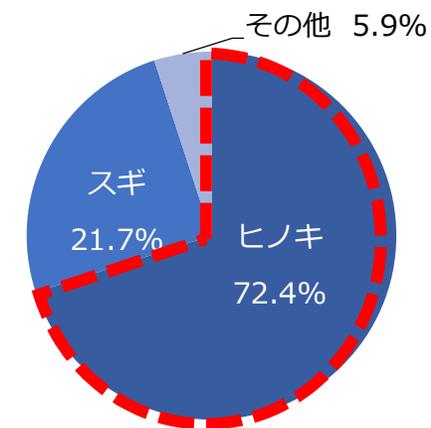
真庭市の8割は森林 (県内2位！)



うち6割は人工林 (スギ・ヒノキ)



うち7割はヒノキ



年間15万 m^3 程度の原木が市内で流通（うち市内産が11万 m^3 ）

⇒ 森林組合、素材事業者20社、原木市場2社3市場が所在

⇒ 岡山県内の原木の1/3は真庭市内で取引



木を使い切るまち真庭の取組（バイオマス集積基地）



年間8～9万tを収集・加工

【林地残材の買取参考価格】

- ・スギ 4,500円/t
 - ・ヒノキ、広葉樹 5,000円/t
- ※状況によって変動あり



木を使い切るまち真庭の取組（真庭バイオマス発電所）



未利用木材
(間伐材・林地残材など)

一般木材
(製材端材など)



地域内外の木質資源をチップ化



10,000kWのバイオマス発電利用
22,000世帯分の需要に対応

稼働8年目（R4年7月～R5年6月実績）

売上；約**17.6億円**

(未利用木材：一般木材 = 6 : 4)

燃料購入；約**12.1億円**

石油代替；約**2.9万KL**，約**31.6億円相当**

※灯油価格R4年7月～R5年6月の平均109円/ℓで算出

経済効果：市内バイオマス産業により付加価値額が約**52億円増加**（※）

(売電額 + 燃料調達額の合計を超える部分は、間接的な波及効果：運送事業などの地域経済へも寄与)

※産業連関表（2012年と2017年）の分析による



CLT工場のカナ層(燃料)を
発電所へ送り、発電所の蒸気
(熱)をCLT工場に送り木材乾
燥や冬季暖房に活用

CLT工場

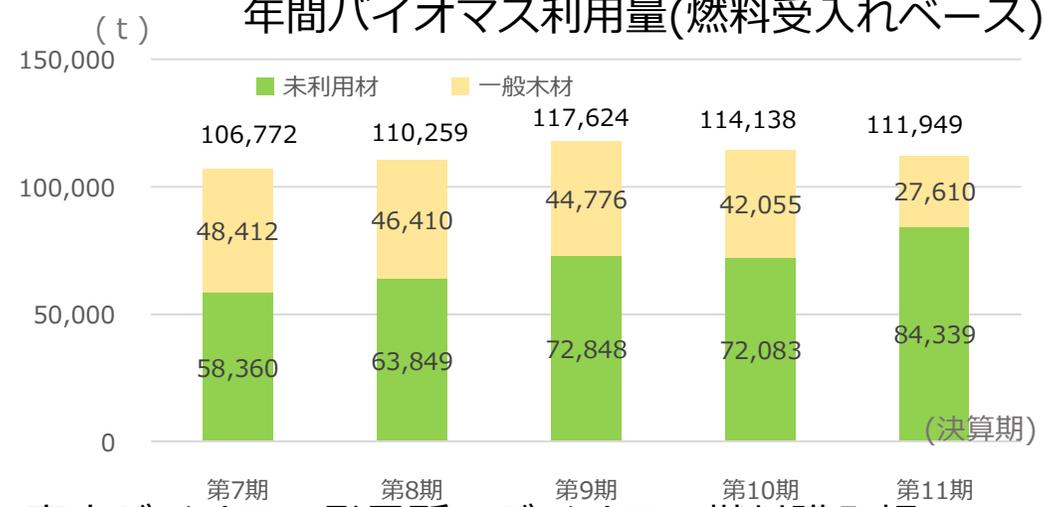
バイオマス発電所

向かいのCLT工場で熱利用

真庭バイオマス発電所は本年度も順調に稼働。バイオマス利用量は例年並であり、堅調。

- ・ 第11期決算期：約112,000t (未利用材：約84,000t (約75%)、一般木材：約28,000t (約25%))
- ・ 売電額や燃料購入費(約12億円)が地域経済循環に寄与。また未利用材に係る山主への直接還元額は累積約3.5億円。

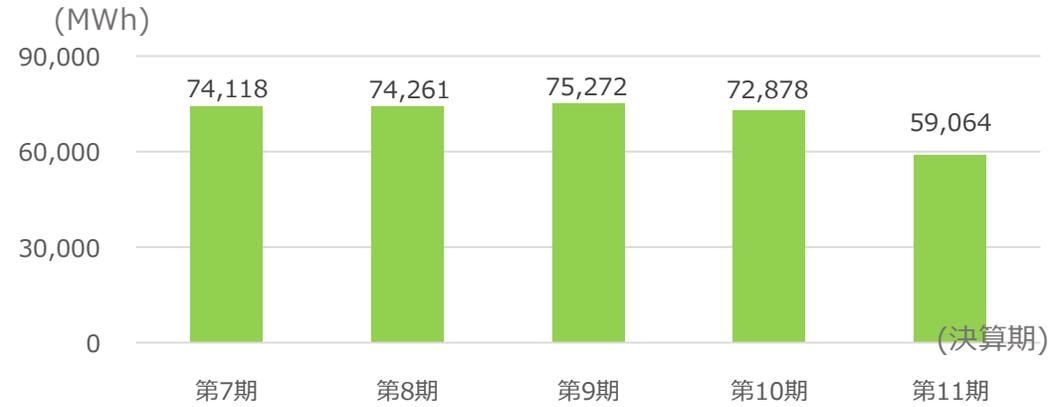
(1) 真庭バイオマス発電所：
年間バイオマス利用量(燃料受入れベース)



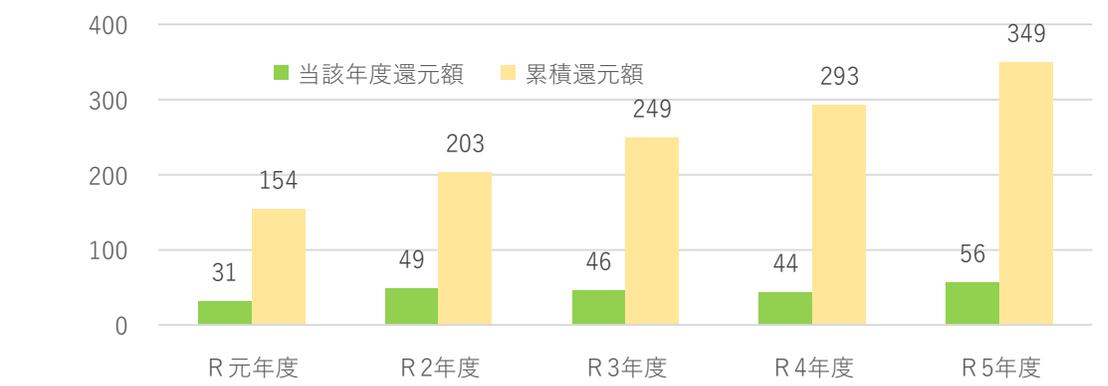
(2) 真庭バイオマス発電所：バイオマス燃料購入額



(3) 真庭バイオマス発電所：年間売電量

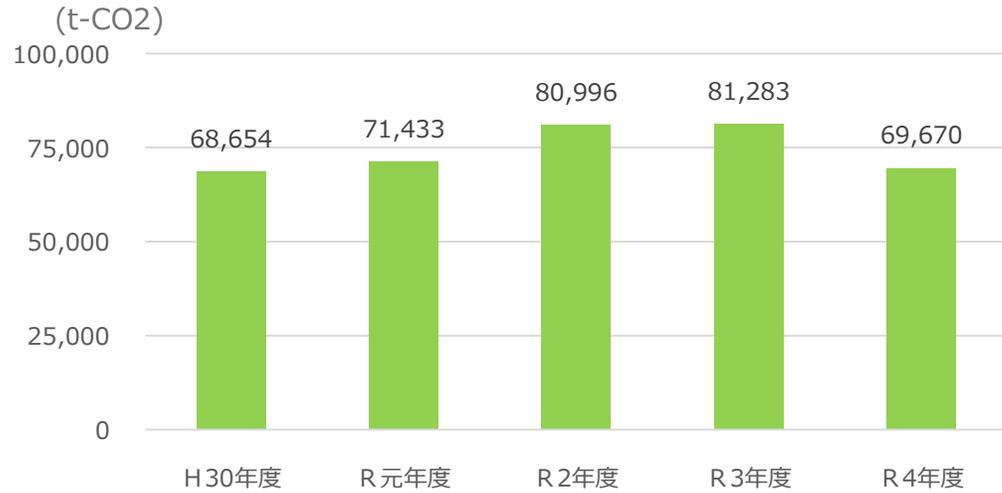


(4) 真庭バイオマス発電所：
未利用材に係る山主への累積還元額(550円/t)

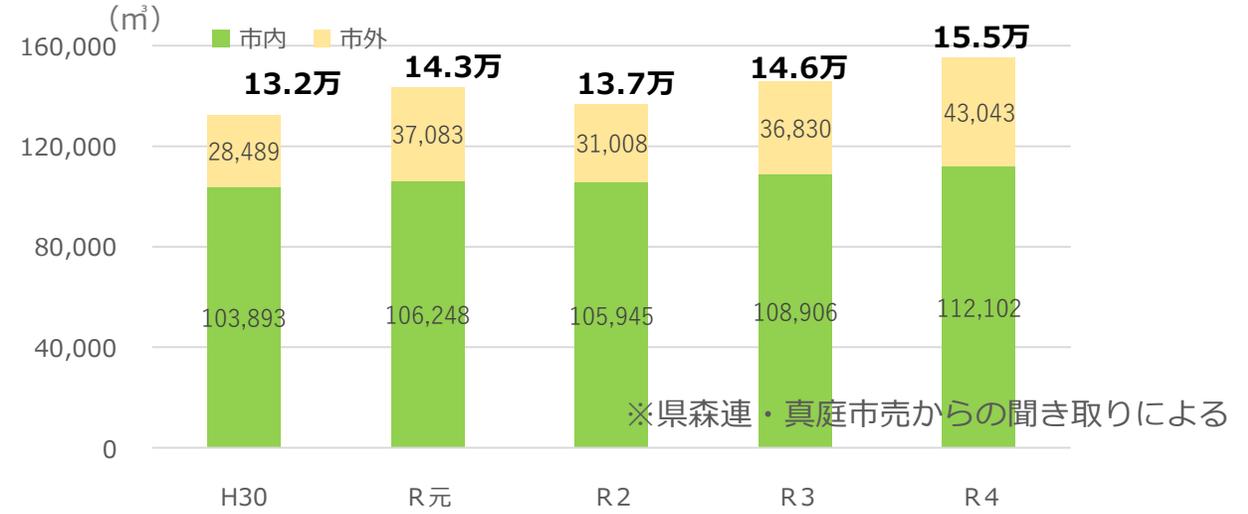


真庭バイオマス発電事業の状況②

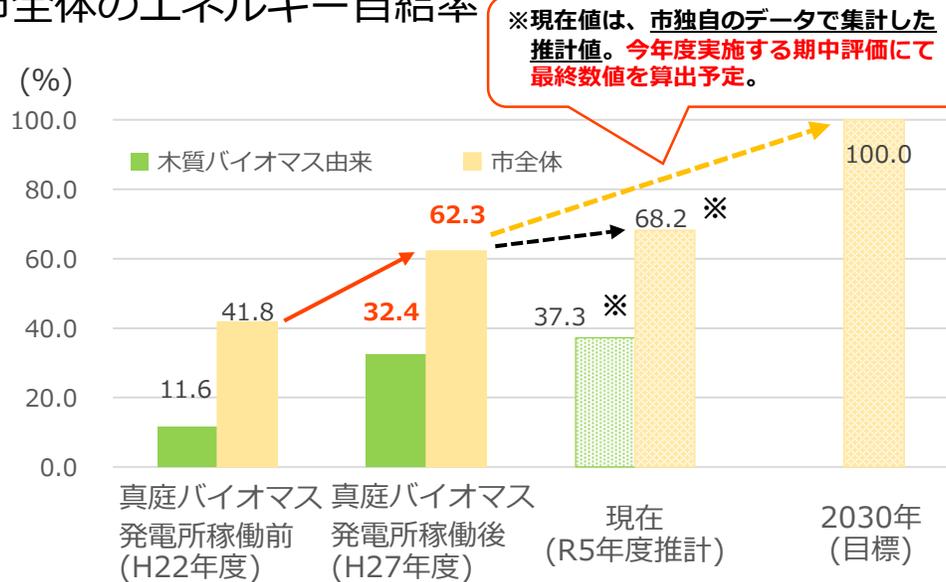
(5) 真庭バイオマス発電所：CO2年間削減量



【参考1】 真庭市内の原木市場の取扱数量の推移



(6) 市全体のエネルギー自給率



【参考2】 真庭市内のバイオマス産業による経済効果

経済効果：
市内バイオマス産業により
生産額が約52億円増加(※)

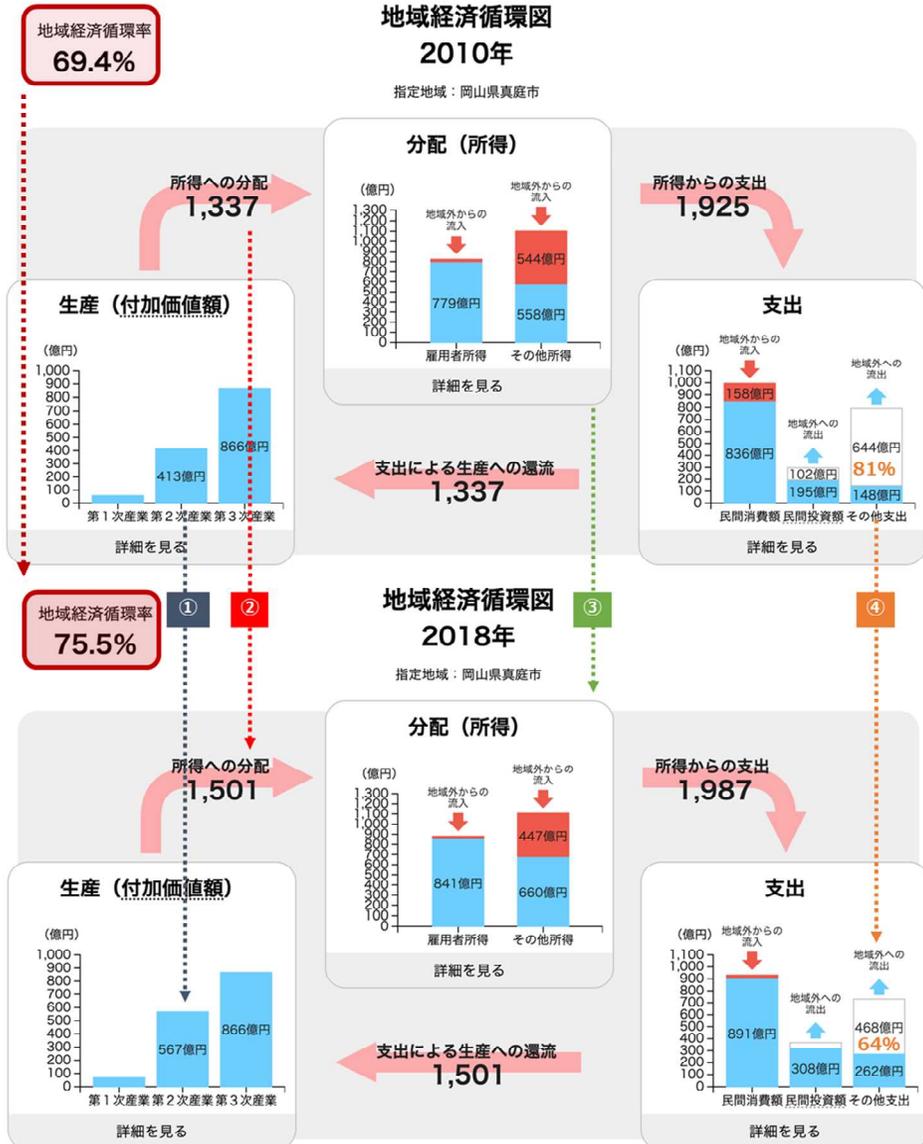
(発電所の売電額 + 燃料調達額の合計を超える部分は、間接的な波及効果：運送事業などの地域経済へも寄与)

※産業連関表(2012年と2017年)の分析による

「2017真庭市産業連関表 (11部門+バイオマス産業)」

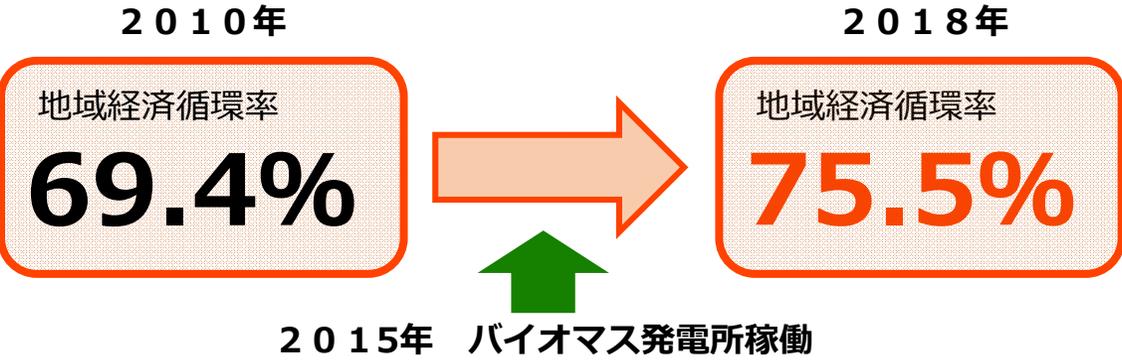
産業部門	中間需要											最終需要				19	20				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			16	17	18	
農林水産業	192	9	112	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	140	11	0	137	294	4,129	183	
鉱業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	34	43	11
製造業	35	1	402	54	1	11	19	45	8	16	4	3	602	3	602	189	134	1,256	2,181	4,888	1,292
建設	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
電気・ガス・水・廃棄物処理	1	0	28	2	3	3	18	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	15	120	4,70	46
商業	9	0	49	12	0	1	7	16	1	8	1	1	106	1	106	106	31	26	328	4,198	130
公共サービス	8	3	61	17	3	11	37	29	3	15	1	1	193	3	193	345	13	45	617	4,241	372
対個人サービス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
対事業所サービス	2	0	33	31	1	10	19	26	6	3	1	1	142	1	142	13	5	13	178	4,112	31
対個人サービス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
木質バイオマス燃料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
木質バイオマス発電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内生部門計	76	6	712	122	11	40	99	131	19	64	11	20	1,339	1	1,339	1,481	413	1,681	4,915	1,881	3,038
消費	1	0	34	3	1	3	4	7	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市内資本形成	27	3	223	7	21	6	28	28	18	41	1	1	800	0	800	0	0	0	0	0	0
移転正	24	0	95	4	4	29	114	17	5	22	1	1	532	0	532	0	0	0	0	0	0
移転負	42	2	179	16	8	11	81	79	8	23	1	1	451	0	451	0	0	0	0	0	0
市内生産額	3	0	50	1	1	5	15	20	2	2	1	1	201	0	201	0	0	0	0	0	0
市内生産額	4	8	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
市内生産額	90	6	381	108	34	90	279	388	33	97	4	7	1,716	0	1,716	0	0	0	0	0	0
市内生産額	163	11	1,293	229	46	130	372	539	51	160	18	26	2,308	0	2,308	0	0	0	0	0	0

【参考3】真庭市のRESASによる地域経済循環図



RESAS（地域経済分析システム）とは？
産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステム

【真庭市の場合】



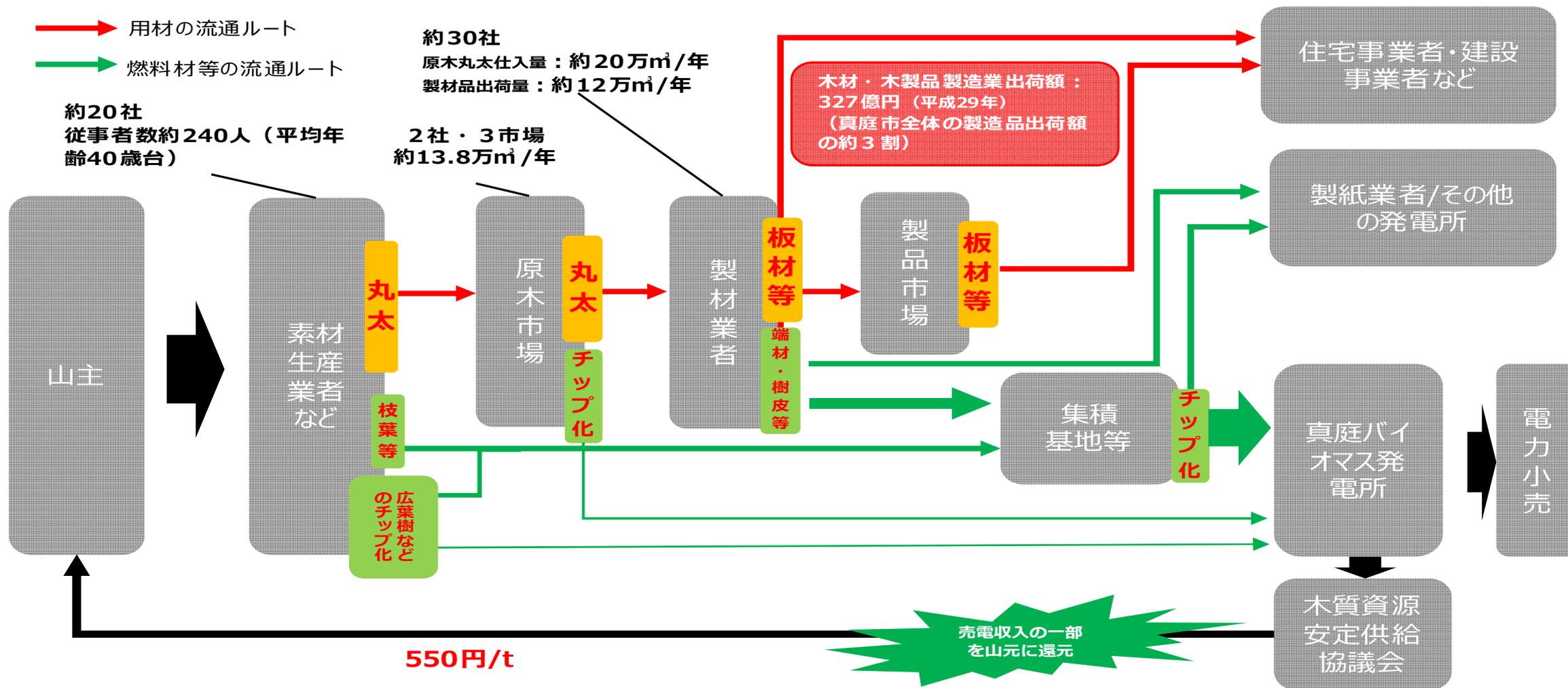
地域資源をうまく活用して地域経済に貢献しているよ



- ① 「第2次産業の生産(付加価値額)」が154億円(137.3%)増 (413億円⇒567億円)
- ② 「所得への分配額」が164億円(112.3%)増 (1,337億円⇒1,501億円)
- ③ 「分配(所得)」の総額は62億円増 (1,925億円⇒1,987億円)
「雇用者所得」のうち地域内は62億円増 (779億円⇒841億円)
「其他所得」のうち地域内は102億円増 (558億円⇒660億円)
「其他所得」のうち地域外は97億円減 (544億円⇒660億円)
- ④ 「支出」の総額微増だが、民間消費額が増 (836億円⇒891億円)
「其他支出」の地域外への流出が減 (644億円⇒468億円)
「其他支出」のうち地域外への流出の割合が減 (81%⇒64%)

木を使い切る仕組み（おさらい）

○ 真庭市では、平成27年に稼働した真庭バイオマス発電所を中心に、「木を使い切る」構造を創出するとともに、売電収入の一部を山主に還元し、**山主の森林への関心を喚起**することで、**持続可能な木材産業構造の構築**を目指している。



木を使い切る仕組み（エネルギーの地産地消）



真庭バイオマス発電所
(10,000kW)

森林資源を活用し地
域電力を発電

真庭バイオエネルギー
(地域小売電気事業者)

必要量の電気を調達し
地域へ供給



平成28年4月1日
より電力供給開始

平成30年4月1日より
市内小中学校など47施設
に電力供給開始
※現在は合計107施設



真庭市役所
再生可能エネルギー
自給による運営



久世エスパス
文化事業を推進



真庭市役所本庁舎は、

木（バイオマス発電の電気とバイオマスボイラーの熱）

太陽（敷地内の太陽光発電）

人で動いています。

真庭市役所本庁舎は、
地域由来の再生可能エネルギーを
100%使用しています。

- ・ CO2削減量：**420t-CO2/年**
- ・ エネルギー費用の削減効果：**874万円/年**



公共施設における再生可能エネルギーによる経費節減効果

真庭市では公共施設 5 施設にチップボイラー・ペレットボイラー等を導入。
 →公共施設 5 施設で、**エネルギーコストを年間約2,100万円削減**。**CO2は年間約1,000t-CO2削減**。さらに地域の木質資源を利用しているため、**年間約1,200万円を地域に還元**。

■再生可能エネルギー100%使用施設

真庭市本庁舎		使用機器
①	CO2削減量	420 t -CO2/年
	エネルギー費用の削減効果(※)	874万円/年
	チップ・ペレット購入額	450万円/年
	チップボイラー ペレットボイラー 太陽光パネル	
北房小学校・こども園		使用機器
②	CO2削減量	286 t -CO2/年
	エネルギー費用の削減効果(※)	534万円/年
	ペレット購入額	300万円/年
	ペレットボイラー	

※(太陽光による発電量*単価)+(ボイラーに要する重油量*重油単価)-チップ・ペレット購入額にて算出。
 重油単価は116円/ℓ。(2022年6月時点単価)



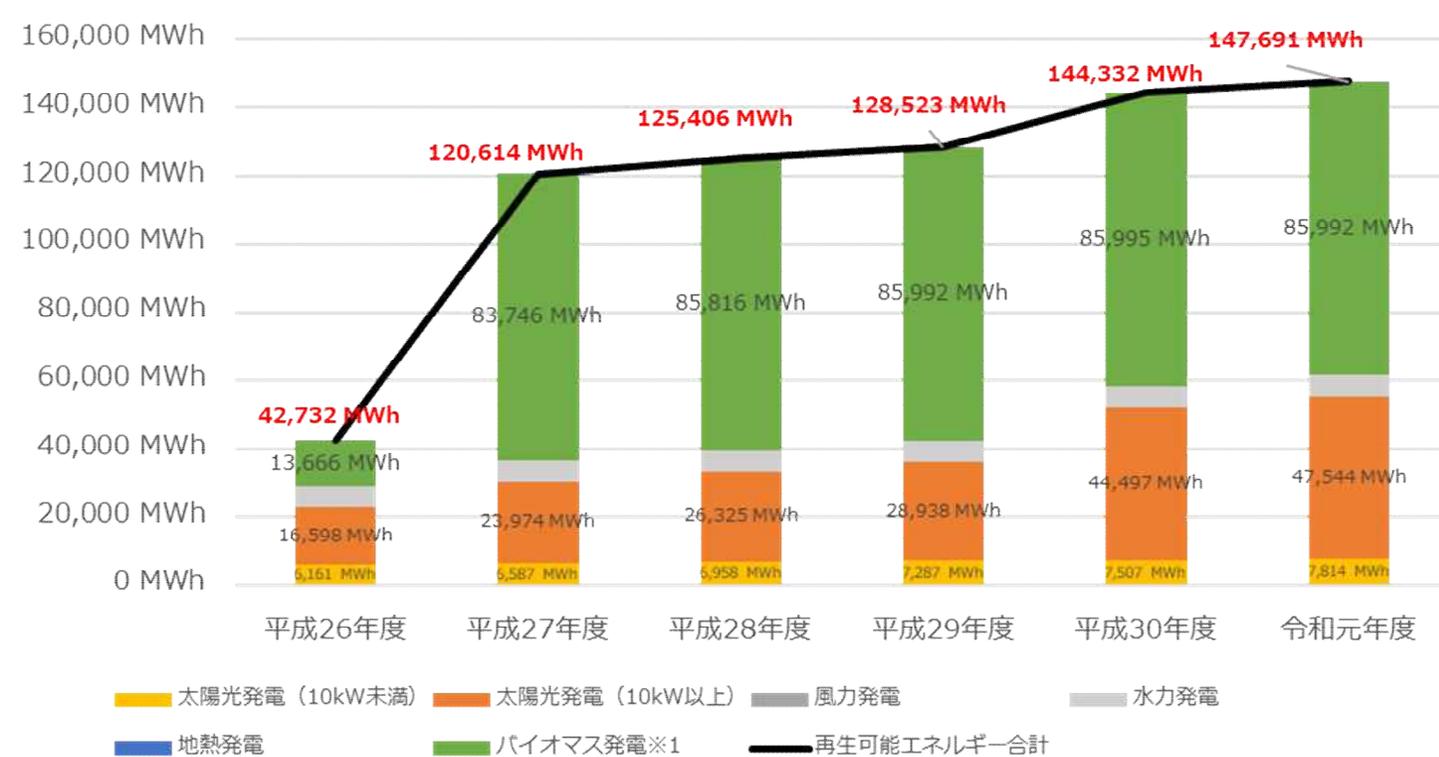
市役所にある
チップボイラ



■一部再生可能エネルギー使用施設

蒜山振興局		使用機器
①	CO2削減量	40 t -CO2/年
	エネルギー費用の削減効果(※)	102万円/年
	チップ・ペレット購入額	60万円/年
	ペレットボイラー	
落合総合センター		使用機器
②	CO2削減量	240 t -CO2/年
	エネルギー費用の削減効果(※)	524万円/年
	ペレット購入額	330万円/年
	チップボイラー ペレットボイラー 太陽光パネル 太陽熱集熱器	
真庭中央図書館		使用機器
③	CO2削減量	46 t -CO2/年
	エネルギー費用の削減効果(※)	120万円/年
	ペレット購入額	80万円/年
	ペレットボイラー	

- ・ 真庭市内の熱利用を含めた**エネルギー自給率**は**約62%** (2020年1月現在)
- ・ 真庭バイオマス発電所の稼働により、**再生可能エネルギー由来の発電量の合計**は**約15万MWh**で、**電力自給率**は**約48%** (2019(R元)年度)。 ※令和元年度の真庭市内の電力需要量：約31万MWh



「再生可能エネルギー自給率100%」を目指す
【具体的な取組】
 ・ 地域資源を市民全体の利益につなげることを前提とする「木質バイオマス発電所の増設」に向けた検討
 ・ 地域マイクログリッドの構築 等

地域エネルギー自給率100%の実現を目指した取組

①第2バイオマス発電所構想

→ 未利用の資源である**広葉樹林や雑木林や、早生樹も含めて活用し、更にもう1機木質バイオマス発電所を設立**することで、再生可能エネルギー由来の電力の割合を増やすことを目的に、**事業の実施可能性を検討中。**



②地域マイクログリッド構想

→ 大規模災害等による系統連系の遮断があったとしても、エネルギーを確保できるよう、**木質バイオマス発電所をはじめとした再生可能エネルギーを活用したマイクログリッドの構築**を検討。

③林業・木材・木造建築教育・研究ゾーン構想

→ **岡山大学、岡山県立大学、岡山理科大学をはじめとした大学・研究機関と連携し、真庭市をフィールドに、森林利活用によるカーボンニュートラル技術の社会実装**をはじめ、**森林・木材・木造建築に関し、教育・研究等を行う新たな枠組み（ゾーン）の構築**を検討。

林業・木材・木造建築教育・研究ゾーン構想 (全体イメージ)

森林・木材・木造建築に関する実地の知見・技術の集積地域を教育・研究の拠点とし、産学官連携により、**高度な木造建築と林業におけるDX**を推進する新たな枠組み(ゾーン)を構築し、森林の新たな価値創造とカーボンニュートラルへの貢献を目指す。

知の集積拠点 (デジタル田園都市)



技術開発連携 (関係機関等)

- 岡山県森林研究所木材加工研究室 (岡山県)
 - 木質素材の加工技術の研究
- 製材事業者 (民間)
 - 木質素材・施工技術の開発
- 国の試験研究機関支所
 - 森林・林業・バイオマスに関する研究



岡山大学 グリーンイノベーションセンター

木造建築・林業・サプライチェーン部門

グリーン by デジタル部門

人材育成連携 (関係機関等)

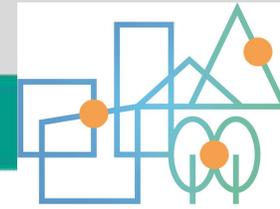
- | | | | |
|--------------|-------------|--------|--------|
| 設計・建設・住宅会社など | 日本CLT協会 | 岡山理科大学 | 県下工業高校 |
| 限研吾建築都市設計事務所 | 岡山県建築士事務所協会 | 岡山県立大学 | 真庭地域高校 |
| | 岡山県建築士会 | | |

連携
 ・共同インターンシップ
 ・設備相互利用
 ・講師派遣
 ・技術提供・指導

研究	<ul style="list-style-type: none"> ● CLT等の木質素材を活用した高層建築物の建築・施工技術開発 ● 木質材料研究 ● 森林資源保全・管理 ● バイオマス発電技術の開発
教育	<ul style="list-style-type: none"> ● 木造建築に必要な意匠・構造等の関連技術に関する教育 ● 木造建築の背景となる林業・木材加工に関する教育 ● 真庭高校における森林・木材関係教育のカリキュラム化



脱炭素貢献・専門人材育成・地域産業強化・技術開発加速・雇用創出



脱炭素先行地域

真庭市：森とくらしで循環 ゼロカーボンシティ真庭

脱炭素先行地域の対象：市内全域の公共施設群
 主なエネルギー需要家：全公共施設283施設

取組の全体像

公共施設について、全面的なLED化や屋根等に太陽光・蓄電池の導入を図るとともに、**新設する木質バイオマス発電**や**バイオガス発電**から電力調達を行い脱炭素化を図る。2030年までに**全公用車（普通自動車）の次世代自動車化**を図るとともに急速充電器等の整備を進める。また、木質バイオマス発電では未利用の広葉樹林や耕作放棄地における早生樹などの利用を図るとともに、バイオガス発電では生ごみ等のバイオ液肥化を行うなど**地域資源循環システムを構築**する。

1. 民生部門の脱炭素化に関する主な取組

- ① 176施設の全面的なLED化を推進
- ② 27施設に新たに太陽光発電（2,100kW）と蓄電池を設置
- ③ 広葉樹林や耕作放棄地における早生樹など、未利用の地域資源を活用した**木質バイオマス発電所**の増設や、**地域新電力での市内電力供給**の実現、その収益を活用した森林・環境への関心の喚起等により、地域エネルギー自給率100%を目指す
- ④ 現在整備を進めている生ごみ等資源化施設で、生ごみ、し尿、浄化槽汚泥等をメタン発酵させて**メタンガスとバイオ液肥**に再生。また、同施設にバイオガス発電設備を導入して自家消費を進めるとともに、**バイオ液肥**は市内農地で活用して**地域資源循環システム**を構築



2. 民生部門以外の脱炭素化に関する主な取組

- ① バイオ液肥濃縮施設を整備することにより、サテライトタンクの建設を不要とし、液肥の運搬や散布に係る費用やCO₂を大幅に削減
- ② 2030年までに**全公用車（普通自動車）の次世代自動車化**を図るとともに、公用車を活用したEVシェアリング事業を行う

3. 取組により期待される主な効果

- ① 新規で導入する太陽光発電、バイオマス発電、生ごみ由来のバイオガス発電といった多様な再エネ電源設備により、大雨・土砂災害等災害リスクが高い真庭市の**レジリエンス強化**を推進
- ② 木質バイオマス発電所の増設により、一定規模の安定的な木材需要を創出することができ、真庭市の製造業の30%を占める**木材関連産業の活性化**を更に推進
- ③ 生ごみ等資源化施設の導入により、**可燃ごみを削減**するとともに、生ごみ等から資源化したバイオ液肥を活用し、**低コスト農業を実現**

4. 主な取組のスケジュール

2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2030年度
		公共施設 全面LED照明化					
		公共施設 ZEB化・省エネ改修					
		公共施設 太陽光発電設備・蓄電池・BEMS設置					
		第2木質バイオマス発電所の検討・設計・工事・稼働					
	生ごみ等資源化施設整備工事		稼働				
	バイオ液肥濃縮施設整備工事		稼働				
				EV導入・急速充電器の設置			



令和5年4月、**地球温暖化対策実行計画(区域施策編)**を策定
 地域活性化の推進と地域課題の解決を図るため、市民・事業者・行政が一体となり脱炭素のまちづくりを進める

削減目標
 目標年度・・・2030年度 実質排出量を基準年度(2013年度)比 **51%** 削減
 長期目標・・・2050年度 実質排出量 **ゼロ** (=カーボンニュートラル)

目標達成のための取り組み
 地球温暖化の影響とみられる気候変動は、自然豊かな本市にとっても対岸の火事ではなく、将来世代にわたる責任として、当事者として脱炭素に取り組む必要があります。

地下資源への
依存
↓
転換

森林・土地など
地上資源の
持続的な活用

地上資源の豊富な
真庭市にとって
大きなチャンス

脱炭素の取り組み
によって…

- 「環境」「社会」「経済」の調和のとれた多様性と循環性のあるまちを目指し、自然とともに営む豊かな暮らしを未来に引き継いでいく
- 地域内の資金循環を創出し、地域経済の活性化を図る
- その資金を活用し、地域の困りごとの解消を図る

■ 脱炭素の取り組みの5本の柱
 次の5本の柱とその代表的な取り組みを中心に、市民・事業者の方々とともに脱炭素の取り組みを推進し、脱炭素社会の実現を目指します。

① 地域活性化の推進と地域課題の解決
 バイオマス発電所の増設検討、生ごみ資源化、市産材を利用した製品の開発・販売、普及・教育の推進など



生ごみの分別収集と資源化

② 大規模災害時にも安心してエネルギーを活用できる体制の整備
 EVシェアリング、公共施設への再生可能エネルギー・蓄電システムの導入、指定避難所への給電体制整備など



クールチョイス推進事業 実践イベントでの災害支援電源供給車 (EV) 展示

③ 環境にやさしいライフスタイル・経営の実践
 ごみ減量の推進、クールチョイスの推進、自転車・公共交通機関の利用促進、エコドライブの実施やカーシェアリングの活用、住宅やビルの省エネルギー化など

④ 再生可能エネルギーと地域の共生
 再生可能エネルギーの導入促進区域の検討、再生可能エネルギー由来の電力への切り替えなど

⑤ 情報発信によるシビックプライドの醸成と地域価値の向上
 観光事業と連携した情報発信、普及啓発、市内交流事業など



観光事業と連携したエコテイクアウトの実践

「地域づくり」×「脱炭素」
 をテーマに、公募した市民と一緒に**市民会議を開催**。
 (令和4年度。計5回) 脱炭素のまちづくりについて議論し市に提言。提言は計画に盛り込まれた。



脱炭素の取り組みの具体的な取組 (例)

1. 地域活性化の推進と地域課題の解決

	行政	市民	事業者
地域エネルギー事業を実施する事業者の構築検討	○*		○
豊かな森林資源を活用した木質バイオマス発電所の増設の検討	○*		
→ 森林の持続的経営体制の強化、林業・木材産業の生産性向上の取り組みの支援・担い手対策等を実施	○*		○
→ 広葉樹の活用推進や耕作放棄地を利用した早生樹栽培等の推進	○*		○
二酸化炭素吸収源である森林の価値の顕在化	○		○
生ごみの資源化と濃縮液肥の活用推進	○*	○	○
省エネ製品の開発・製造・販売、導入推進	○		○
市産材を利用した製品の開発・販売、普及・教育の推進	○		○



市民会議の開催（R4～延べ9回開催）



岡山大学さんにも企画・運営にご協力いただきました。

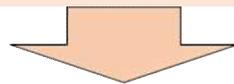
真庭市では、これまで30年にわたり、地域資源を上手に使いながらヒト・モノ・カネの循環を行ってきた。

資源を余すこと無く利用するという理念はSDGs・カーボンニュートラルの思想にもマッチしている。

これまでの取組について一定の評価をいただいているが、これをいかに今後発展させていくか。

ポイント

- ①市民への波及 ⇒ 電力の地産地消
- ②林業・木材産業以外の事業者との連携 ⇒ **地域新電力会社の設立**
- ③地域振興への貢献 ⇒ 新電力会社の利益を地域の困りごと解決へ繋げる
仕組みづくり



地方創生のチャンス

ご清聴ありがとうございました。

「ふるさと納税」で真庭市へのご支援をよろしく申し上げます。
心をこめ、自慢の真庭産品をお届けします。
ぜひ、真庭へお越しください。おもてなしの心でお迎えします。

真庭市キャラクター
「まにぞう」の応援を
お願いします。



返礼品は、自慢の真庭産品です。
ぜひ一度検索してください。

真庭市役所
〒719-3292 岡山県真庭市久世2927-2
TEL ; 0867-42-1111
URL ; <https://www.city.maniwa.lg.jp/>



「バイオマスツアー真庭」 問い合わせ先
(一社) 真庭観光局
〒717-0013 岡山県真庭市勝山654
TEL ; 0867-45-7111
URL ; <http://www.biomass-tour-maniwa.jp/>